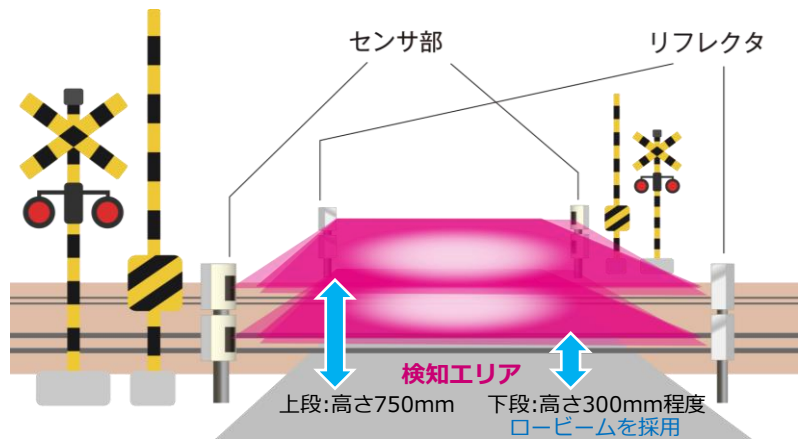


LS式踏切障害物検知装置

踏切安全

ライダーセンサを2段配置することにより、検知しにくい対象を正確に捉え踏切の安全性向上を実現。



2段式の特徴

- ボディの反射率が低い自動車に対してタイヤホイールで検知可能
- 転倒した車いす等を検知可能
- 処理部1台で4台のセンサを制御可能



LS式踏切障害物検知装置

踏切安全

ライダーセンサで2次元に検知。フェールセーフによる高度な安全性を提供。

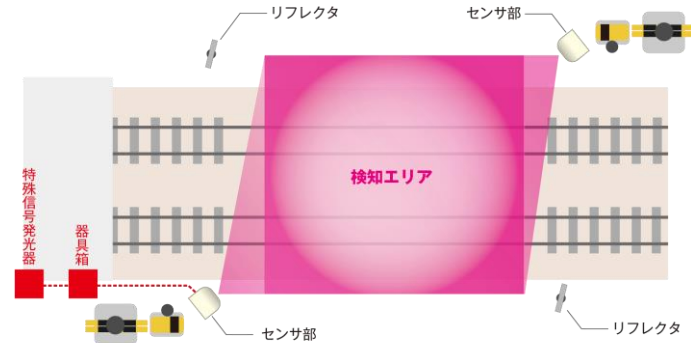
2D センサ



処理部



平面図



主な特徴

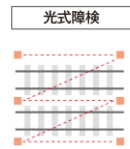
高度な安全性を実現

極端な悪天候等や器具の損壊などにより、リフレクタからの反射波を検知できない場合、システムは自動的に機能停止し、その状態を出力して知らせます。フェールセーフ機能を搭載し安全な運用を実現します。



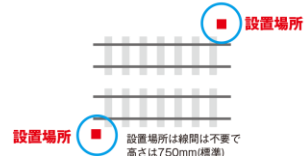
高性能な検知性能

従来の光式障検では「線」でしか検出できなかった障害物を「面」でとらえます。踏切領域内の全長0.5m以上の物体を捉えられます。



作業容易性、低コスト

線間にセンサを設置する必要がなく、低い位置(標準はレール面から750mm)に取り付けるため、運行時間帯でも容易に機器を設置・メンテナンスすることが可能。そのため低コストでの導入・運用が可能です。



人体への安全性

レーザー光源はClass1に分類される905nmを用いており、人体への影響はありません。踏切を渡る際に、通行する人がセンサ部を直接見ても安全な仕様となっています。

JIS C 6802
Class 1

レンズや望遠鏡など、どのような光学系機器で集光しても、眼に対して安全なレベル